

野球独立リーグのビジネスモデルに関する研究
A study on business models of the independent baseball league
1J02C011-4 氏名 阿部 将
指導教員 主査 原田宗彦 先生 副査 小野沢弘史 先生

I. 緒言と研究の目的

2005 年 4 月 29 日、四国アイランドリーグという野球独立リーグが開幕した。プロ野球選手への夢を捨てきれない若者へ挑戦の場を提供することを目的とするこのリーグであったが、初年度は 3 億 1497 万円の赤字を計上し、2006 年度も約 1 億 5000 万の赤字となる見通しである事が発表された(高知新聞.2006)。事業としては失敗だとする意見もある(村山.2006)中で、運営理念に共感して各地域で次々と独立リーグ構想が立ち上げられ、開幕に向けて準備が進められている。北信越においては、リーグ運営会社ジャパン・ベースボール・マーケティング株式会社が発足し、北信越 BC リーグの開幕が 2007 年 4 月 28 日に予定されている。

本研究では、①四国アイランドリーグの経営分析、②北信越 BC リーグのビジネスモデル分析、を通して日本における野球独立リーグのビジネスモデルについて考察する。

II. 研究の方法

- ・ 文献、ニュースリリース、インターネット上の各公式 HP を参照する。
- ・ 両リーグの関係者にインタビュー調査を行なう。

【分析方法】

調査によって得られた定性的データを、SWOT 分析法を用いて分析する。

【インタビュー対象の選定】

- ・ 株式会社 I B L J
マーケティング部広報担当 田口 哲之 様
- ・ 株式会社ジャパン・ベースボール・マーケティング
代表取締役 村山 哲二 様

III. 質問の内容

両者に共通する質問項目として、独立リーグ構想を立ち上げた経緯と将来の展望を聞いた。異なった質問項目として、各地域の特性やリーグの収支、ビジネスモデルを聞いて類似点と相違点を明確にした。

IV. 結果

文献・公式 HP とインタビュー調査から得られた定性的データを、SWOT 分析を用いて整理した結果、四国アイランドリーグと北信越 BC リーグの特性が明らかになった。本研究で明らかになった特性のうち Strength と Weakness を以下にまとめる。

【四国アイランドリーグ】

Strength

- ・ 野球熱が高く各県の対抗意識が強い
- ・ 気候が温暖である
- ・ 高速道路網が整備されている

Weakness

- ・ 人口が少なく、人口密度も低い
- ・ 企業数が少ない
- ・ 球場の設備が悪い
- ・ 鉄道網が未整備である

【北信越 BC リーグ】

Strength

- ・ アルビレックス新潟のノウハウがある
- ・ 人口が比較的多い
- ・ 球場の設備が良い

Weakness

- ・ 人口密度は四国同様低い
- ・ 各県間の距離が遠い
- ・ 気候が寒くシーズン期間が短い

V. 考察・今後の課題

分析結果から明らかになった両独立リーグの特性から、今後の野球独立リーグへの提言を行った。本研究からの提言を以下にまとめる。

① 後援会制度の充実

J1 アルビレックス新潟の後援会制度を挙げ、後援会がもたらす観客動員数増加と会費による財政支援の効果に言及し、後援会制度の充実が野球独立リーグの地域密着化と収益力向上に貢献できることが示唆された。

② スクール事業の充実

アルビレックス新潟サッカースクールと野球塾アークバリアドリーマーズの事例から、スクール事業がもたらす選手育成と地域振興への有効性が示唆された。

③ 積極的な交流戦の開催

四国アイランドリーグの試合種別の観客動員数から、交流戦が持つ集客力を明らかにした。

④ 行政との良好な関係

四国アイランドリーグにおける球場使用料に対しての県の減免措置に言及し、行政との良好な関係がリーグ運営のコスト削減に効果的であることを明らかにした。